

輸液・シリンジポンプ 医療安全プログラム 募集要項

監修 : 武蔵野赤十字病院 杉山良子
後援 : 医療安全全国共同行動

研修の主内容と特徴

【主内容】

**医療安全の要素を取り入れた、指導者向け
輸液・シリンジポンプの研修プログラム**

【研修の特徴】

- ◇少人数制の実技研修で、医療安全を取り入れた指導方法について体験しながら学習する
- ◇自身で院内研修を実施出来るような、研修ツールの提供（研修用DVD、指導マニュアル 等）
- ◇指導者の視点を重視したシナリオシミュレーションによる学習と振り返り(ビデオ活用)

研修目的

【目的(GIO)】

輸液・シリンジポンプの安全使用に関する知識・技術を再確認し、指導者として必要な知識・技術・態度を理解、修得する

【行動目標(SBOs)】

1. 医療安全の基礎的な考え方を理解できる
2. シミュレーションを用いた学習支援の基礎を理解できる
3. 輸液・シリンジポンプの安全な使用法を実践・指導できる
4. 指導者として院内研修の企画・実践の考え方を理解できる

研修概要

《開催日》 2011年12月7日(水) 10:00～17:30
12月8日(木) 9:00～15:30

※2日間セットの研修となります

《会場》 テルモメディカルプラネックス(神奈川県足柄上郡中井町)

《対象》 医療安全担当者・教育担当者

※院内でのポンプ研修の指導に当る方

《募集人数》 12名(各施設1名まで)

※募集定員になり次第、受付終了致します

《参加費》 ￥50,000円【税込】(昼食付き、交通費・宿泊費別途)

《監修》 武蔵野赤十字病院 医療安全推進室 杉山良子

《後援》 医療安全全国共同行動

プログラム

【1日目】

■医療安全について 《講義》

講師：杉山良子(武蔵野赤十字病院)

■シミュレーションを用いた学習支援について 《講義》

■輸液・シリンジポンプの適正使用とメンテナンス 《講義・実技》

【2日目】

■シナリオシミュレーション 《実技》

■研修の進め方と指導のポイント 《ディスカッション・発表》

研修ツール例

※研修終了後データでお渡しします

輸液ポンプ実施チェックリスト

輸液ポンプ安全使用DVD



輸液ポンプ 指導のポイント (指導マニュアル)

輸液手順	実施内容	※すべての行為で指差呼称を行う 注意ポイント
1 患者状態を把握する	<input type="checkbox"/> 薬剤の準備を行う <input type="checkbox"/> 輸液セットをプライミングする <input type="checkbox"/> 患者確認をおこなう <input type="checkbox"/> 6Rを確認する <input type="checkbox"/> 患者環境を確認・アセスメントを行う	・患者トレイの徹底 ・輸液セットは必ず「ポンプ専用輸液セット」を使用する ・注射器と氏名を確認する 【患者にフルネームを覚えてもらう】 【ネームバンドでフルネームを確認する】 ・患者名、薬剤、目的、用量、用法、時間 ・注射薬と薬剤を照合する ・ルート接続部位やルートの長さ、必要物品を判断する
2 準備室でのポンプの準備	<input type="checkbox"/> 外観の破損が無いか確認する <input type="checkbox"/> 架台にポンプをセットする <input type="checkbox"/> ポンプをスタンドに設置する	・破損、落下などの場合は、MEIに報告する 【履歴機能】 電源が入っていないくても、落下や衝撃の履歴は機器本体に記録される ・ポンプの重みにより不安定になるので、出来る限り5本脚の点滴スタンドを使用する ・2台以上の場合は並列に取り付ける ・重みによる転倒を防ぐため、ポンプはスタンドの高さ中央より下側に設置する
3 患者に説明する	<input type="checkbox"/> 輸液ポンプを使用して薬剤の投与することを説明する	・輸液ポンプを使用して輸液する理由の把握
4 ベッドサイドで輸液ポンプを準備する	<input type="checkbox"/> ポンプの設置位置を確認する <input type="checkbox"/> AC電源（非常用）を確保する（コンセントを挿す）	・ベッドの位置、刺入部位、患者の移動を考慮する ・バッテリーランプが点灯し、充電中であることを確認する 【充電満了時のバッテリー残量の目安】 (1個15分 2個30分 3個80分以上) ・バッテリーが少ない場合は、充電満了のものと交換する (患者がポンプを持って移動する可能性がある場合は特に充電量に注意する)
5 輸液セットを装着する ※必ずポンプの正面から操作する	<input type="checkbox"/> ドアレバーを引いてドアをあける <input type="checkbox"/> 電源を長押しして電源を入れる	・セルフチェック機能を確認する 【セルフチェック機能】 ① 前面のランプがすべて点滅し、プザーが鳴り、フィンガー部分が動く ② ①の動作後、閉塞、気泡、ドア表示が点滅する ・点滴ボトルとポンプの間には、必ずたるみをつける

<チューブを装着する>



<指導のポイント>

- ・チューブ真っ直ぐに正しくセットする
挟み込んだら未送液になります。
引っ張りすぎ、たるみすぎに注意が必要
- ・クレンメは必ずポンプの下流にセット
クレンメをポンプの下流に装着するのは閉塞の原因を取り除く際、薬液の過大注入をおさえるため。
気泡がルート内に入った場合、クレンメを閉じて点滴筒に気泡を逃がす
- ・ポンプの上流側のチューブを少したるませる
引っ張った際にピン針抜け防止
- ・大容量輸液バッグはポンプとたすぎがけにする
バランスが保ちやすく、薬液による液ダレからの汚れを防止

<インスト虎の巻>

・曲がり: チューブが蛇行していると、押される長さが多くなったり、未投与の危険があります。

・引っ張りすぎ: チューブの太さが変わり、輸液量が正しく測定できなくなる
... 1cm引っ張ると流量は約5%低下となります
また、たるみすぎるとドアが閉まらなくなったり、チューブが屈曲する原因となります

・ロールクレンメが下がっちゃう!
クレンメを全開のままローラーを押上げると、全開の状態での位置にロック出来ます
これで患者さん側にズルズル落ち解消!

<参照資料、ページ>

事前-4「輸液・シリンジポンプの正しい使い方」8ページ

C-2「輸液ポンプ実施チェックリスト」

安全使用の流れだけでなく、
指導ポイントを重視した教材

P/C10-0200

受講者の声

- 指導方法や考え方を体験しながら学習出来る珍しい研修だった
- 他職種(Ns、ME)合同研修での双方の気付きが大きい
- 新人の気持ちを理解することが出来、今後の指導に生きる
- 院内研修にそのまま生かせるツールが揃っている



ご案内

先の震災などの影響による停電の発生や、研修応募者が最低催行人数(6名)に達しない場合など、研修を延期せざるを得ない場合がありますことをご理解いただいた上、ご応募下さい。

延期を決定した場合は速やかに参加予定者にご連絡いたします。

テルモメディカルブラネックス[®]はテルモ株式会社の登録商標です。
テルモ株式会社 2011年8月

P/C10-0200